



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

5. 岡山県における薬剤耐性キュウリ炭疽病菌の発生実態と有効薬剤の選抜

[要約]

岡山県内で発生しているゲッター水和剤耐性キュウリ炭疽病菌に対して、有効な 8 剤を選抜した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

近年、県内でキュウリ炭疽病の発生が増加傾向にあり、耐性菌の発生による防除効果の低下が懸念されている。そこで、県内のキュウリ炭疽病菌における耐性菌の発生実態及び有効薬剤を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. チオファネートメチル・ジエトフェンカルブ（商品名：ゲッター水和剤）に対する耐性菌が県内の一部圃場で発生しており、耐性菌が優占する圃場も確認される（表 1）。
2. これら耐性菌に対して、アミスター 20 フロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤、ミギワ 10 フロアブル、ペンコゼブフロアブル、セイビアーフロアブル 20、テーク水和剤、ベルコートフロアブル及びダコニール 1000 の予防効果が高い（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. ゲッター水和剤の防除効果が低下した圃場では、耐性菌の発生が疑われるので、他系統の薬剤による防除を行う。効果が維持されている圃場では、今後の耐性菌の発生及び拡大を防ぐため、本剤の連用を避ける。
2. 本成果で示した薬剤を初めて圃場で散布する場合、薬害及び薬斑による汚れが発生する恐れがあるため、圃場全体に散布する前に数株のみ試験的に散布するなど確認しておく。
3. 本成果で示した薬剤の防除効果については、室内試験による予防的効果に基づいて判定しているため、実際の栽培での薬剤散布は病害の発生前又は発生初期とし、耐性菌の発生を抑えるためにも、同系統の薬剤の連用は避ける。



[具体的データ]

表1 岡山県内のチオファネートメチル・ジエトフェンカルブ耐性キュウリ褐斑病菌の発生状況

	調査圃場数 (菌株数)	耐性菌確認圃場数 (菌株数)	耐性菌確認圃場割合 (%) 耐性菌割合 (%)
県内産地A	3 (17)	0 (0)	0 (0)
県内産地B	1 (10)	0 (0)	0 (0)
県内産地C	6 (48)	1 (6)	17 (13)
県内産地D	1 (9)	1 (9)	100 (100)
県内産地E	2 (17)	1 (6)	50 (35)
県内産地F	1 (8)	0 (0)	0 (0)
県内産地G	1 (1)	0 (0)	0 (0)
計	15 (110)	3 (21)	20 (19)

注) 寒天平板希釈法及び生物検定による検定結果から判断した

表2 薬剤耐性キュウリ炭疽病菌に対する各種薬剤の予防的効果

F R A C	供試薬剤	希釈倍率	防除価
11	アミスター20フロアブル	2,000	100
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000	99.8
52	ミギワ10フロアブル	1,000	100
M 3	ペンコゼブフロアブル	500	99.8
12	セイビアーフロアブル20	1,000	99.9
3・M 3	テーク水和剤	600	100
M 7	ベルコートフロアブル	2,000	100
M 5	ダコニール1000	1,000	99.4
10・1	ゲッター水和剤	1,500	25.4

注1) 供試3菌株の試験の平均値

注2) ポット苗により散布7日後の予防効果を確認し、試験は3回行った

[その他]

研究課題名：キュウリ炭疽病の多発要因の解明による総合防除技術の開発

予算区分・研究期間：交付金・令6～8年度

研究担当者：畔柳泰典、桐野菜美子、井上幸次、矢尾幸世

関連情報等：試験研究主要成果、[令7 \(47-48\)](#)